



自治会要望が長期間放置の原因を問う 多少行政効率が悪くとも、分庁舎は町・地域を守る大きな力

9月8日清水議員が一般質問を行いました。テーマは、上多良漁業協同組合と市および自治会との関係、梁問題と市庁舎問題の2点です。一般質問、答弁は次の通りです。

清水議員の9月議会での一般質問

上多良漁業組合と、米原市及び多良自治会との関係、梁問題について

次の5点について質問を行いました。

①平成23年1月に多良自治会から提出された要望書が長期間放置されたままである。その原因について

a、係争中の事案であり、協議できなかった。

②上多良漁業組合が梁や養魚池を再開するのであれば、市や地域と再協議が必要ではないか

a、組合と一緒に自治会に対し説明会を開催する。

③梁免許条件は守られているか

a、守られている。現地も確認している。

④魚が遡上できる環境の指導を

a、漁業組合も協力してもらっている。

⑤堤防上にある養魚池の撤去を

a、上多良漁業組合と県とが協議している。

庁舎問題について

次の3点について質問を行いました。

①市民は分庁舎に不便を感じていないか。

a、自治振興、防災機能など市民自治センターと一体化した統合庁舎を市民が望まれている。

②現在の庁舎を活かしたまちづくりが必要ではないか。

a、新市米原市の誇るべき拠点として今回の位置条例変更案を提出している。

③自治センターは10年後には縮小される。分庁舎方式は町や地域を守る大きな力。

a、地域課題は従来の仕組みでは対応できない。「地域と寄り添う」というテーマで事業をすすめる、地域の活性化を図っていく。

住民にとっての市庁舎の原点は、困っているとき、なんでも相談でき、非常時には職員がそばにいて安心できる庁舎こそ理想です。立派な庁舎で遠く冷たい職員こそ最悪です。そんな庁舎に対する思いを語りあいましょう。

「米原市庁舎問題を原点から考える集い」を開催します。

●日時：9月23日（水・祝日）

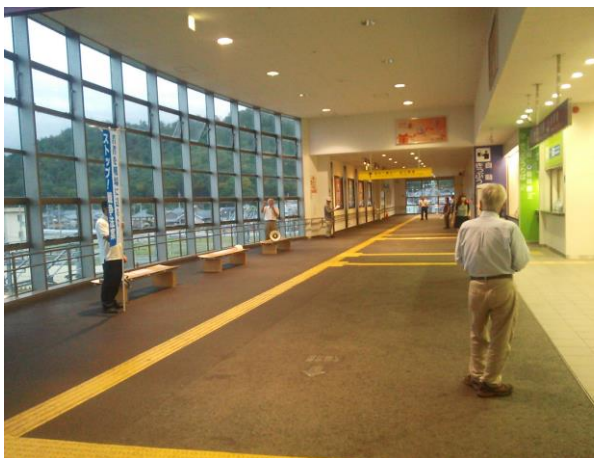
午後3時～5時

●場所：米原市下多良 米原公民館

●内容：米原市の庁舎問題が重要な段階です。市役所の位置を定める条例が提案されており、市議会の最終日（9月30日）に採決となります。もう一度原点に戻って、庁舎問題を皆で考えたいと思います。

●主催は、日本共産党米原市議団と米原革新懇、その他団体で構成する「米原市庁舎問題を原点から考える集い」実行委員会です。是非参加下さい。

9日米原駅で、戦争法案廃案の宣伝活動を、革新懇とともに行いました。多くの通行客がビラを受けとってくれました。



雑感 庁舎問題での清水議員の質問に対して、当局の回答は、統合庁舎ありきの答弁で、まったくかみ合っていない。市民の思い、分庁舎を核としたまちづくり。ますます過疎化していく中で、統合庁舎10年後の米原市の現実。どの質問にも真剣に向き合っていないような気がします。「地域と寄り添う」言葉だけが躍っています。